

奈良県道路整備委員会（第8回）議事録

日時：令和5年10月6日（金）

15時00分～17時00分

場所：奈良春日野国際フォーラム

薨～I・RA・KA～ 別館 会議室5

■委員からの主な意見

【肥後委員】

- ・道路にも様々な視点があり、新たな価値を作り出せるような役割があると感じた。ハード面、ソフト面から道路の重要性を今一度理解して、整備を進めなければならない。
- ・ソフト対策を行うにあたって、民意を得るという意味でも、単純明快なビジョンや方策を打ち出すことが重要ではないか。

【清水（陽）委員】

- ・健康などの話も踏まえ、様々な「歩く空間」というものを、考えていかなければならないと改めて感じた。
- ・交通体系には車、歩行者だけでなく、自転車もあり、高齢化社会が進み、免許返納されていく中、例えば、高齢者用の三輪自転車など、様々な自転車のあり方が広がっていくと思う。その中で、自転車道をどのように考えていく必要があるのか感じた。

【伊藤委員】

- ・奈良県の特徴として、歴史、自然、観光という視点も非常に重要。県民の経済活動にも影響を及ぼすことから、県民に対して分かりやすく、コンセンサスを得られるような計画づくりが大事。

【東田委員】

- ・道路は、観光をはじめとした様々な使われ方があるということを考慮しつつ、限られた予算の中で、必要なところに必要な道路を出来るだけ早く整備していくことを考えていかなければならない。

【松井委員】

- ・自動車、二輪車、自転車、公道を走行できる車両として新たに加わった電動キックボード（特定小型電動機付自転車）が同一場所を走行するのは、非常に危険な状況。自転車通行帯の整備を推進していくことは非常に重要。また、福祉の話にもあったように、歩行空間の整備も重要。
- ・交通事故の起こりにくい道路整備を推進してほしい。

【森島委員】

- バス、タクシー、トラックなどの運転者について、人材難の時代を迎えており、今後、外国人運転者導入の話が進む可能性がある。近い将来、日本語が読めない方を想定した道路標識のあり方について考えることが必要になってくるのではないかと。

【山田委員長】

- 道路整備を行うか判断するにあたり、費用対効果を計算するが、「多様な視点」という意味でも、車以外の価値や効果をどう取り入れるかは大きな課題だと思っている。今後、そういった検討も必要。

【本日の議論のまとめ（委員長まとめ）】

- 道路利用者は車だけでなく、多様な需要者がいる。多様な需要者の立場に立ち、「自転車」「歩行者」「バリアフリー」「物流」「観光」などの視点を道路整備に盛り込むことによって、例えば健康などの新しい価値の道路を提供でき、また新たに道路に価値を付与することが意味のあること。
- 多様な地域の視点で、「北中部地域」だけでなく「南部地域」も必要。多様な視点で「災害時」や「維持・修繕」も重要。また、道路の長期使用を考慮すると、「自動運転」や「デジタル化」といった「長期的な技術発展」というのも明確に考えないといけない。
- こういった要素を道路整備政策に取り入れて活かしていくことが求められている。